2018年7月 Vol.8

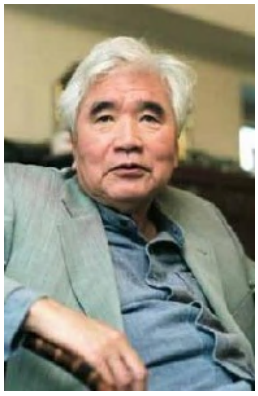
星川だより

夏

熊谷空襲を忘れない市民の会　会報

「難死の思想」に寄せて

加藤一夫



小田　実 さん

暑い夏がまたやってきた。

２６６人が亡くなった熊谷空襲から７３年。その出来事を今どう考えるべきなのだろうか。

あの戦争で死んだ空襲死者たちを考えるとき、３０年ほど前に私が読んだ作家小田　実（その後、ベ平連のリーダーとなり。２００７年に死去）が書いた「難死の思想」を思い起こす。

戦後２０年目の１９６５年1月に、あるリベラルな雑誌に載せた比較的長い論文の題名で、内容の主要部分は、戦後文学の動向に関するものだが、ここで、彼は大阪空襲の体験について書いている。

１９４５年８月１４日（熊谷空襲と同じ日で８回目の空襲）午後、まだ子供だった彼は、大阪で空襲、「大阪砲兵工廠を襲ったB２９による空爆を体験する（死者約６００人）。バラバラに四散し、あるいは黒焦げになった遺体の間を「死にたくないの多くは黒焦げになっていて死んでいった人びと。それを自ら体験した小田は、人々のその無残な死を「難死」と呼んだ。難死とは、無駄死、虫けら同然の死を表現した言葉である。その死に意味があるわけではない。政権指導者やそれに同伴している知識人たちは、「国にささげた立派な死」だとか，特攻兵の死を「散華」と呼ぶのと同じような意味付けをすることに反発して書いた文章でもある。

戦後２０年、またぞろ戦前の大義名分を振りかざす「公状況」が蘇り始め、戦前のナショナリズムが頭をもたげ始めた時（まさに現在はその帰結といえるだが）、戦後の価値観に基づいた平和と民主主義の「私状況」の論理を対置して批判したものである。

空襲の死者は難死した人々であり、国に捨てられた虫けら同然の存在である。戦後、国は、軍人・軍属に対しては、すでに６０兆円を超える補償（恩給）を行ってきた。しかし、民間の戦争被災者にはびた一文も払っていない。棄民政策を続けているのだ。いくつかの裁判も敗訴で終わり、人びとに「受忍」を要求している。現在、補償立法化の動きもあり、超党派で法案も国会に提出されているが、混乱した国会で成立する見通しはない。

戦争は難死を出すことだが、難死を出さないとは、戦争をしないこと、平和な国にすることを意味する。「難死の思想」とは、そのような戦争の状況をつくらないこと、「戦争しない国」にするという決意の思想である。

だが、戦争はその後も続いている。難死は日常的になっている。例えば、最近の出来事としてトランプ米大統領が国際社会の意向を無視してアメリカ大使館をイスラエルに移したが、それに反対するパレスチナの人々に対し（とりわけガザでは）、イスラエル軍の空爆ですでに２か月で１万３０００人以上の死者（難死）が出ているという。多くは幼い子供たちたちだ。シリアでも空爆は日常的で、多くの人々が難死している。

戦後７３年、戦争は今もどこかで起こり続いている。日本をともかく戦争をする国にしないことが大切だ。小田　実の文章を読み返して私はそう思った。

熊谷平和講座

熊谷空襲を忘れない市民の会では、加藤一夫さんを講師に、毎月１回熊谷平和講座を開催しています。どなたでも参加できます。

- ●次回開催日　７月１８日（水）
- ●時　間　　１８：３０～１９：３０
- ●場　所　　熊谷市市民活動センター
- ●第６回内容　「空爆の歴史とその被災者」

永田浩三さんの講演会に参加して

佐々木美砂

四月二十二日、荒川公民館で元NHKディレクターの永田浩三さんの「戦争を伝える・戦争をしない～メディアと記憶～」の講演会に参加しました。

永田さんは昭和二十九年生まれの、戦後民主主義の申し子とおっしゃっていましたが、私は永田さんと十歳ほど年下の、三無主義、新人類世代です。戦後民主主義についてのまともな教育は受けず、ただ勉強しろ、勉強しろと言われてきました。

講演会で印象に残ったお話は、原爆とベトナム戦争の報道についてでした。当時、原爆の報道が矮小化され伝えられていたことは、聞いていました。昭和二十八年に制作された「ひろしま」という映画は、女優の月丘夢路さんが出演料なしで出演したことでも有名ですが、原爆の投下と、その後を描いたこの映画には、広島の大勢の人たちがエキストラで出演しました。広島の出来事を後世に残す大プロジェクトだった訳です。しかし、多くの人々の思いが詰まった映画「ひろしま」は、結局上映禁止になってしまいました。

田英夫というキャスターについて、私は国会議員になってから知りました。田キャスターはベトナム戦争について、北ベトナムから戦争の真実を伝えたために圧力がかかり、TVを降板しました。アメリカや政権与党に都合の悪い事実を伝えると、圧力がかかります。今日においても同じようなことが起きています。

韓国では、政府がTV番組に圧力をかけたとき、TV局の職員と市民が政府に抗議したそうです。日本にもTV局職員や市民の連帯があれば、今日のメディアももう少しましになるのではないかと思います。

テレジン収容所の幼い画家たち展

2018年6月7日（木）から12日（火）、八木橋百貨店8階カトレアホールにおいて、「テレジン収容所の幼い画家たち展」が開催されました。この企画展は、昨年荒川公民館で開催した「熊谷空襲とアウシュビッツ」において、作家の野村路子さんに「ナチスの収容所で子どもたちは4000枚の絵を残した」と題した講演をお願いしたとき、“もう一度、熊谷のみなさんにテレジンの子どもたちの絵を見ていただきたい”とのお話しがあり実現しました。

この企画展は、1991年4月に八木橋百貨店からスタートし、当時全国23ヵ所を巡回展示し多くの感動を呼びました。その後、テレジン収容所の子どもたちの絵は、東松山市にある埼玉県平和資料館に保存されていました。今回の企画展は、報道機関各社が取り上げるなど、期間中は大勢の人たちにご来場いただき、再び熊谷の地に熱い思いと平和への願いを届けることができたのではないかと思います。写真は野村路子さんです。

～　カンパのお願い　～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願いします。
なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行
口座記号・記号：00100-7-265321
加入者名：熊谷空襲を忘れない市民の会
口座名称カナ：クマガヤクウシュウヲワスレナイシミンノカイ

他行からの振り込みの場合は
店名（店番）：０一九店（019）
預金種目　：当座
口座番号　：0265321

会計報告（2018/03/19～2018/06/28）
収　入：　47,000　円
支　出：　65,527　円
残　高：　74,532　円

編集担当者を募集します。
編集委員　吉田庄一　米田主美
連絡先　吉田庄一（090-4957-9181）
メール　imajn241@gmail.com

「体験者に聞く　熊谷空襲」

～戦争を知らない人たちへのメッセージ～

- 日　時：**８月１８日（土）**14:00～16:30
- 会　場：熊谷市緑化センター
- 参加費：500円
  障がい者・介助者200円
  高校生以下無料
- 主　催：熊谷空襲を忘れない市民の会
- 連絡先：090-2491-1263（米田）
  070-5551-7734（東）
- 後　援：熊谷市教育委員会